



庶民の会
はやしだ つとむ
林田 勉 議員

新規予算・動き出すのか 仮称「道の駅しまばら」構想！

Q 島原市内での設置構想に向かうのか。

A 深江―諫早間にはトイレ、休憩施設がない。加えて今後、島原道路が口之津まで延伸した場合、島原市が中間地点になる。協議会の中でも、どこかにトイレや休憩施設が必要と考えられている。今後、県とも調整しながら、市内設置に向け慎重に進めていきたい。

Q 道の駅を設置する場合、国、県等の支援があると思うが、その内容は。

A 国交省、総務省、県などの支援メニューがある。島原市に適した方法を関係機関と連携して検討していきたい。

Q 実施に向けた令和5年度の行動計画は。

A 将来にわたる持続可能な道の駅を目指し、機能、規模、運営方法など基本計画構想を策定する予定。

Q 高規格道路活用に関連して、通勤団地構想も一緒に計画できないか。

A 島原道路が完成すれば県央等への通勤圏となり、自然、子育て環境などいい本市である。児童数の確保など相乗効果が考えられ、十分検討させてほしい。

市内各地区、いざ火災のとき 消防水利は大丈夫か

Q 市内の消火栓、防火水槽などの設置状況は。設置基準はあるのか。足りているのか。

A 確認点検は適宜されている。消防水利情報もスマホなどで確認できるが、更に周知をしたい。

新規予算・子育て応援新入学児童ランドセル支給事業とは

Q その趣旨と目的は。

A とことん子育てにやさしいまちを目指しており、子供の身体的負担の軽減、保護者の経済的負担の軽減、同じものを配布することで安心して使ってもらえることを目的にした。

Q 使用するランドセルの選択肢は自由か。支給するランドセルのサンプルが見れるのはいつか。

A ランドセルを使うという決まりはない。令和6年度に入学する児童へ配布予定のランドセルは、できるだけ早いうちに保護者、家庭へ周知と配布をしたい。



新風会
うへだ よしさだ
上田 義定 議員

施政方針

Q 入札契約事務の電子化へ。方針転換の理由、初期投資とランニングコストは。

A 県が電子入札システムの市町共同利用を令和6年度開始する。市単独導入より費用負担が軽減できる。初期投資は約451万円、ランニングコストは約500万円。

Q 県内自治体に中学生までの医療費現物給付の動きがあるが、現状は。自治体間で差がついてはいけないので、国、県が統一してやるべきではないか。

A 13市のうち10市、8町のうち4町が小・中学生の福祉医療費現物給付を実施する意向。本来は国、県で統一してやるべき施策で、市長会でも県に対し、小・中学生の福祉医療費の2分の1補助や現物給付化を要望してきたが至らず、各自治体がそれぞれ取組を進めている。

Q 中学生の福祉医療費現物給付をとりあえず始めてはどうか。しかし、財政の厳しい地方自治体間で玉の打ち合いを続けることはできない。市長会等通じて、国、県の統一した仕組みができるよう努力していただきたいがどうか。

A 大変厳しい財源ではあるが、避けて通れない。願わくは新年度どこかの時点で、現物給付を提案させていただきたい。

広馬場に「つねむい」を

Q 津町の公有水面が埋め立てられ、県道の拡幅、付け替えが進行している。また、クリニックも新築されるとの話もあり、官民のタイミングが合わさって、広馬場再開発の動きになっている。

埋立地は防災広場であるので、建物は構築できないが、屋台は可能ではないか。島原の新たなスポットになること間違いなし。若者がチャレンジする「みなと広馬場屋台村」はどうか。

A 屋台村として活用できるか精査しなければならぬが、若者がチャレンジする夢の話はあってほしい。